

梅村聡・民主党参院議員と 鈴木邦彦・中医協委員が講演



今回は参加者の関心の高い診療報酬改定や社会保障と税の一体改革に関するテーマだった



最新情報を踏まえて社会保障と税の問題点を指摘する梅村参院議員



詳細な資料を基に診療報酬について語る鈴木中医協委員

2012年度診療報酬改定や社会保障と税の一体改革など、医療制度をめぐる議論も大詰めを迎えた11月29日。本誌主催で、今年最後となる第6回「現場からの医療刷新についての勉強会」を開催した。

梅村聡・民主党参院議員と、日本医師会常任理事で中央社会保険医療協議会(中医協)委員を務める鈴木邦彦・博仁会理事長が登壇。東京・港区の会場には医師や製薬・医療機器関連企業幹部が参加した。

前半は鈴木氏が「中医協の議論の動向と病院経営」をテーマに講演。10年度改定の論点を振り返り、直近の議論を踏まえ、12年度改定へのミクロ・マクロ両面からの課題を指摘した。中小病院や有床診療所の処遇はどうなるのか。

診療や病院経営を通して培った現場力に加え、日医で取り組む制度改革、さらにはヨーロッパに足を運んで学んだ最新事情も押さえる。幅広い観点からの提言は、説得力に富むものだった。

続いての演者は梅村氏。テーマは一応、「社会保障と税の一

体改革の行方」だったが、話はそれにとどまらない。梅村氏は直前まで党厚生労働部門会議に出席し、生活保護受給をめぐる激論を闘わせていた。政治の最前線から直送の材料を基に社会保障と税の問題点を指摘。政権交代以降、医療現場の声を背景に統治力を磨いてきたとあって、事例はすべて具体的に明快だ。

さらに梅村氏は2日前の27日に投開票が行われた大阪府知事・市長ダブル選挙の結果にも言及する。府民・市民が求めたものと、与党の政権運営との関係を冷静に分析。柔らかな口調ながらも、重要な論点を織り込む内容に会場は聴き入る。

講演後は参加者からの質疑に演者が応える形での進行。ここでもキーワードは「現場」だった。病院と診療所、都市部と地方という区分けではすくい切れない課題をめぐり、率直な意見が交換されていた。

終了後は懇親の席に移行。乾杯後、講演や質疑には取りきれない話題が各所で拡大した。両講師を中心に参加者同士の交歓が時間の許す限り続いた。



勉強会では率直な質疑応答が行われた



懇親会で。左からCSLペーリングの岡英二氏、坂井隆之氏、鈴木氏



談笑する土屋了介・がん研究会理事(中央)



左からETERNALの塚本厚志氏、東邦大学医療センター大橋病院の浅川恭行医師



梅村氏と語る藤原研司・横浜労災病院名誉院長(右)



左から土屋氏、亀崇正・浦安ふじみクリニック院長、太田照男・慈啓会白澤病院理事長



平山登志夫・晴山会平山病院院長(左)と鈴木氏



梅村氏と歓談する堀口彰・小林製薬医療機器事業統括本部特別経営顧問(右)